☆．福島県における調査結果概要

○河川とダム湖に生息する魚介類、底生動物は、全国的にも多様で貴重な種が分布している事が判明。
○ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）の特定外来生物が、河川とダム湖へ定着。

【福島県内調査結果概要】

下表に2巡目調査と平成16年度調査の種数について示します。

前回調査と今回の調査を比較すると、特に阿武隈川では底生動物が前回調査よりも多く確認されました。これは、今回調査を実施した全国27河川の中で最も多い河川でした。また、特定種では今回の調査で準絶滅危惧種のモノアライガイ（底生動物）が阿武隈川において新たに確認されました。また、前回調査で確認された絶滅危惧ⅠBのホトケドジョウ（魚介類）も阿武隈川と三春ダムにおいて引き続き確認されました。

このように、福島県内の河川とダムは、魚介類・底生動物にとって良好な環境を保っており、貴重な生物の生息空間となっていることが伺えます。

表　福島県内の河川とダムにおける調査実施項目と確認された種

河川名 ダム名	調査項目※1)			
	魚介類※2)		底生動物	
調査年次	2巡目	H16	2巡目	H16
阿武隈川※3)	88	91	200	292
	7	7	2	4
三春ダム	20	33	166	160
	2	4	5	4

福島県河川ダム概略位置



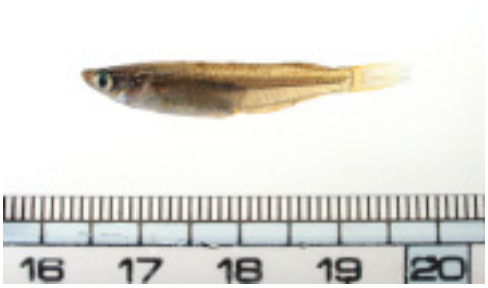
注1）表中の上段の数字は確認された全体の種数を、下段は特定種の種数を示しております。
注2）魚介類調査は、魚類とエビ・カニ・貝類それぞれの確認種の合計を示したものです。
但し、三春ダムにおける2順目調査については、エビ・カニ・貝類を調査対象としていないため、魚類のみの種数となります。
注3）阿武隈川における魚介類調査および底生動物の種数は、今回調査を実施した宮城県分側の調査結果を含む阿武隈川全体の種数を示しております。

【各調査項目のポイント】

◆魚介類

阿武隈川と三春ダムにおいて平成16年度に魚介類調査を実施した結果、メダカが阿武隈川で確認されました。メダカは、1999年に環境省（庁）が公表したレッドリストの中で、絶滅の恐れがある種（絶滅危惧II類）として掲載され話題を呼び、その減少した原因については、農業用水路や河川がコンクリート張りにされたことなどが考えられております。また、特定種では、絶滅危惧ⅠBのホトケドジョウが、阿武隈川と三春ダム両方で前回調査から引き続き確認されました。特に三春ダムにおいては今回調査を実施した全国10ダムのうち唯一確認されたダムでした。

メダカ（阿武隈川）

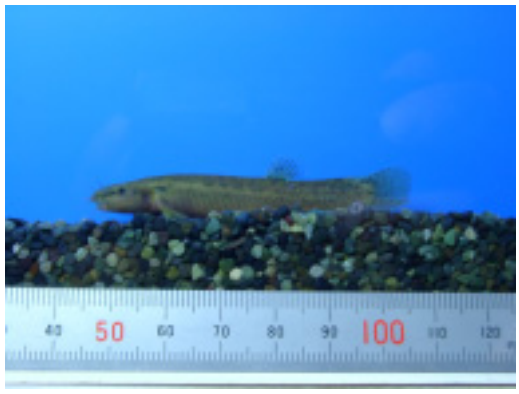


ホトケドジョウ（阿武隈川）



写真：
国土交通省　福島河川国道事務所

三春ダムにて確認された
ホトケドジョウ



写真：
国土交通省　三春ダム管理所

◆底生動物

阿武隈川と三春ダムにおいて平成16年度に底生動物調査を実施した結果、阿武隈川では今回の調査で292種、三春ダムでは160種確認されました。特に、阿武隈川においては、今回調査を実施した全国27河川のうち最も種が多く確認された河川でした。また、特定種では阿武隈川と三春ダム両方で、準絶滅危惧種のコオイムシが確認されました。特に、三春ダムにおけるコオイムシの確認は、今回調査を実施した全国10ダムにおける唯一の確認でした。

【外来種の傾向】

◆魚介類

平成１６年度の阿武隈川と三春ダムにおける魚介類･底生生物調査を実施しました。阿武隈川においては、特定外来生物として指定されているブルーギル、オオクチバス、コクチバスの3種が平成１１年度の調査から引き続き確認されました。（下表参照） 特に、阿武隈川で確認されたコクチバスは、体調が約１０cm以下の小型の個体が多数確認されていることから、河川に定着し、再生産している様子が伺われます。一方、三春ダムにおいてもブルーギルとオオクチバスが平成１１年度の調査から引き続き確認されました。（下表参照）今後も、継続的にモニタリングを実施していく必要があります。

阿武隈川にて発見された
小型（１０cm程度）のコクチバス



写真：国土交通省　福島河川国道事務所

表　阿武隈川と三春ダムにおける外来魚の確認状況経年比較

調査年度／外来種	河川名ダム名	調査年度			
		平成 2 年度	平成 6 年度	平成 11 年度	平成 16 年度
ブルーギル	阿武隈川	×	●	●	●
	三春ダム	／	／	●	●
オオクチバス（ブラックバス）	阿武隈川	●	●	●	●
	三春ダム	／	／	●	●
コクチバス	阿武隈川	×	×	●	●
	三春ダム	／	／	×	×

凡例　　●：確認、×：未確認、／：ダム完成前で未調査